

事業所における自己評価結果（公表）

別紙3

公表：平成 年 月 日

事業所名

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		静養ルームとプレイルームを設けている	
	②	職員の配置数は適切である		○	通常は1対1で対応しているが、土曜日の長期休暇時は難しい時がある	
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		段差にはスロープを設置している	
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		利用後の清掃、一日のゴミ収集廃棄。 適宜 玩具の消毒、寝具の洗濯。	
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		適宜 ミーティングを開催	
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者からの評価も真摯に受け止め改善に努めている	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所（会社）全体として公開している	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		1か月に一度 他事業所から評価を得、ミーティングにて改善に努めている	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		「重心ネットワーク」各支部による研修会参加	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		連絡ノート、送迎時の会話を利用している	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		他のサービス事業所との連携を使用している	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている		○	「重心連携会議」において「地域支援の 情報収集」をしている段階。	

関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画を自発管がスタッフに告知している
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		ミーティングによりスタッフの意思疎通を図っている
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		少々マンネリ化している為、現在検討中
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		基本は1対1であるが「朝の集い」「集団遊び」において活動計画を作成している
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝の送迎前に分担を決め、スタッフの意見をふまえて伝えている
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		ホワイトボードに全体報告を記入し退社している
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		看護記録として記載し活用している
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		日々見直しが必要と感じるとスタッフの意見をふまえて判断している
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		医療的ケアを中心に行なっている看護師が参画している
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		療育センターの相談員さんとコンタクトに留まっている
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		療育センターとのコンタクトをとっている
	㉔	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○		各児の主治医より指示書を頂き緊急対応ができるよう、連絡可能な状態にしている
	㉕	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		重心児である為、行なっていない
	㉖	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		県立特支、市立特支共に共有できている
	㉗	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		適宜研修に参加している
	㉘	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		健常児との関わりは検討中

	⑲	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	医療ケア児が多く、参加できていないが 今後検討する
	⑳	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	連絡ノート、送迎時、ご家族とのコミュニケーションに努めている。
	㉑	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	トレーニングに入る段階は難しい
保護者への説明責任等	㉒	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時、変更時 丁寧に説明している
	㉓	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	計画書には必ず 保護者から署名捺印を頂いている
	㉔	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	定期的にケア会議の時もあり、その都度の助言と支援が多い。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	父母の会、保護者会の立ち上げはまだ難しい。
	㉖	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	保護者とスタッフの相性を考慮し、適切なスタッフが対応している
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	年4回春夏秋冬に「あたり」を発行している
	㉘	個人情報の取扱いに十分注意している	○	個人情報の持ち出しの原則禁止しているが、ケア会議等例外の場合は慎重に扱っている
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	送迎時、保護者とのコミュニケーションに努め、時間を取っている
	㉚	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	地域との関わりはまだ華けていない
	非常時等の対応	㉛	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○
㉜		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	年に一度実施している
㉝		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○	送迎時、連絡ノート、TELにて確認している

⑭	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		自然食の給食を提供しているが、調理員・スタッフがダブルチェックしている
⑮	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○	今後、細かい事も事例集にしていきたい。
⑯	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		現在虐待はみられない
⑰	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		流涎の多い利用児にはフェルイバスタオルを付けるとし、服の濡れ予防をしている。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

保護者等向け 放課後等デイサービス評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	ご意見
環境 体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	正			
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	正			訓練を促してとお願いしたい
	③	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	正			
適切な支援の提供	④	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか	正			
	⑤	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	正			
	⑥	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		正	正	特に希望してる 感珠のリスグを助けて、機機会が あつた方がいいかなと不明
保護者への説明等	⑦	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	正			
	⑧	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	正			
	⑨	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	正	正		
	⑩	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	正	正		
	⑪	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	正	正		
	⑫	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	正	正		
	⑬	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	正	正		
	⑭	個人情報に十分注意しているか	正			
非常時等の対応	⑮	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	正			
	⑯	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	正			

満足度	⑭	子どもは通所を楽しみにしているか	正			
	⑮	事業所の支援に満足しているか	下	下		予約している予定を変更する時は相談してほしい 帰宅時間がもう少し遅いとかいってほしい

i 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

ii 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。